

## 用語の説明

## 【あ行】

## ＜ICT＞

情報通信技術 (Information and Communications Technology) の略。

## ＜ITS＞

高速道路交通システム (Intelligent Transport System) の略。最先端の情報通信技術を用いて人と道路と車両とを情報でネットワークすることにより、交通事故、渋滞などといった道路交通問題の解決を目的に構築する新しい交通システムのこと。

## ＜アセットマネジメント＞

限られた予算の中で施設を計画的に維持・補修し、資産の効率的な管理・運用を行うこと。

## ＜アンリンク (トリップ)＞

出発地から目的地までに移動する間に、利用する交通手段が変わるごとにトリップを分割して、それぞれを1トリップとみなしたものの。

## ＜OD表＞

Origin Destination Matrix の略で、分布交通量を発生交通量・集中交通量との関係からまとめた表。行に発生側ゾーン、列に集中側ゾーンを対応させ、行和がそのゾーンの発生交通量、列和が集中交通量を示す。起終点交通量表ともいう。

## 【か行】

## ＜基幹的バス＞

概ね鉄道並みの基幹交通として都市部で整備される路線バス、またはそれに近い機能を有するバス（主要なバス停のみ停留する快速バス等）。一般的には、前者のシステム「基幹バス」の用語が用いられるが、本書では、それに準ずるバスを含めた幅広い意味としてとらえている。

## ＜緊急輸送道路＞

地震直後から発生する緊急輸送を円滑かつ確実に実施するために必要な道路。

## ＜均衡配分＞

すべての利用者が常に旅行時間を最小にし、常に利用可能な経路における完全情報を得ているという原則に基づき、その結果到達する交通均衡状態を作り出す配分手法。

## ＜グラビティモデル＞

重力モデルともいい、分布交通量の推計や、地域間人口動態の説明のために用いられるモデル。

## ＜グリーンツーリズム＞

農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動。欧州では、農村に滞在しバカンスを過ごすという余暇の過ごし方が普及している。

## ＜グリーン物流＞

環境負荷の小さい物流。

## ＜グロス/ネット＞

グロスは人口一人あたり。ネットは外出した人一人あたり。

## ＜原単位＞

人口指標や経済指標に用いられる。一人あたり原単位ともいい、トリップ数を経済指標（人口、面積等）で除することによって得られる。

## ＜現在パターン法＞

分布交通量の将来予測の際に、現況の分布パターンをそのまま適用し、発生集中交通量をモデル推計値に入れ替え、将来分布交通量を推計する手法。分布交通量予測モデルの精度が必ずしも高くないことから、都市圏の将来交通量予測で、これまでよく用いられてきた。

## ＜高規格幹線道路＞

全国的な自動車交通網を構成する、自動車交通の高速性・安全性を確保した自動車専用道路であって、旧建設大臣が指定したもの。

## 【か行】（前頁のつづき）

## ＜公共交通車両優先システム（PTPS）＞

優先的な信号制御や優先レーン等の設定により公共車両を優先的に運行させるシステムのこと。略称で、PTPS（Public Transport Priority System）ともいう。

## ＜高次医療施設＞

高度で専門性の高い医療サービスを提供する施設。

## ＜交通結節点＞

異なる交通機関が接続する地点。鉄道と道路が接続する駅前広場、あるいは空港、港湾のターミナルなど。

## ＜交通容量＞

与えられた道路条件、交通条件のもとで、ある一定時間内に車線または車道のある断面もしくは一様な区間を通過することが期待できる車両または歩行者の最大数。通常1時間当りで表す。

## ＜高齢化率＞

全人口のうち、高齢者（65歳以上）が占める割合。

## 【さ行】

## ＜シーニックバイウェイ＞

シーニックバイウェイ北海道は、地域と行政が連携し、地域発案のもと、地域資源の保全・改善により「美しい景観」「活力ある地域」「魅力ある観光空間」づくりを推進するものであり、平成17年より関係機関、団体が構成されるシーニックバイウェイ北海道推進協議会（以下「推進協議会」）を設立し、これまでに推進協議会において8つのルートを指定している。各ルートの活動団体においては、沿道の花植、清掃活動やビューポイントの整備、情報発信、バスツアーの実施等、様々な活動が展開されてる。なお、「シーニックバイウェイ」とは、「風景のよい道路」の意。米国においては国家レベルで同様の取組が1989年以来行われている。

## ＜シームレス化＞

一般にシームレスとは継ぎ目がないこと。「交通のシームレス化」とは、複数の交通手段を連続的かつ円滑に利用できる状態を指す。

## ＜就業者（居住地における）＞

ある地域に居住している人のうち、賃金、給料、諸手当、営業収益、手数料、内職収入など収入（現物収入を含む）になる仕事をしている人。

## ＜従業者（従業地における）＞

従業地における就業者数。

## ＜従業地＞

仕事をしている事業所の所在地。

## ＜渋滞損失時間＞

対象となる調査区間について、昼間12時間帯の各旅行時間と渋滞がない場合の旅行時間の差を求め、損失時間に交通量を掛けて損失台時を算出し、1台あたり時間価値を掛けたもの。

## ＜主要幹線道路＞

主に都市間交通や通過交通のような比較的トリップ長の長い交通を受け持つ道路。比較的高い規格で設計され、一般に大都市では放射環状型、中小都市ではバイパス型に配置され道路網の骨格を形成している。

## ＜白地地域＞

都市計画区域のうち、用途地域が指定されていない区域。市街化調整区域など。

## ＜人口フレーム＞

計画が目標としている将来のある年次（目標年次）における、計画対象地域の全人口または各地区別の人口。数値的な予測による値、または将来の目標値として設定され、それに基づいて土地利用需要量や交通量が予測され、土地利用計画や交通計画が立案される。

## ＜生活関連経路＞

生活関連施設（高齢者、障がい者等が日常生活又は社会生活において利用する旅客施設、官公庁施設、福祉施設その他の施設）相互間の経路。

## 【さ行】（前頁のつづき）

## ＜生活拠点＞

通勤・通学・日用品の買い物などの日常生活を送る上での主要な目的地となる場所のこと。

## ＜生成原単位＞

人口1人当たりのトリップ数。

## ＜生成交通量＞

ある地区に住んでいる人が1日に行うトリップ数のことで、そのトリップがどこで行われているかを問わない。

## ＜ゾーン＞

対象地域を分割した集計単位。道央都市圏の場合、大、中、小の3区分を設定。大ゾーンは市区町村のエリア。

## 【た行】

## ＜ターミナル＞

本来鉄道の終端駅を意味したが、現在では各種交通路線の端末機能を有する施設に拡張して用いられている。具体的にはバスターミナル、トラックターミナル等があり、都市交通の機能を高めるうえで重要な働きをなす。空港、港湾も重要なターミナルと考えられる。

## ＜代表交通手段＞

一つのトリップでいくつかの交通手段を乗り換えた場合、その中の主な交通手段を代表交通手段という。主な交通手段の集計上の優先順位は、(1)鉄道→(2)バス→(3)自動車→(4)二輪車→(5)徒歩の順としている。

## ＜端末交通＞

複数の交通手段を用いた移動において、代表交通手段トリップに付随するトリップのこと。地下鉄利用の場合の、駅まで、あるいは駅からのバスや自転車、徒歩によるトリップのこと。

## ＜地域高規格道路＞

一般国道、主要地方道等の中で、ネットワーク上規格の高い道路として整備することが望ましい路線。

## ＜超高齢社会＞

高齢化率が7%を超えると「高齢化社会」、14%を超えると「高齢社会」、21%を超えると「超高齢社会」と呼ばれる。

## ＜通過交通＞

交通調査や交通需要予測において、設定される対象地域内に出発地および到着地のいずれをもたず、単に通過するだけのトリップのこと。日常的には、当該地区を単に通過するだけの自動車交通に対してよく使われる。

## ＜道路空間の再構築＞

道路・街路に求められる、交通、空間、防災、環境、沿道土地利用等の各種機能を踏まえ、道路空間を再配分（再構築）すること。

## ＜都市機能＞

行政、商業、交通、通信、教育、文化、娯楽、医療、福祉といった施設。

## ＜都市計画＞

都市の健全な発展と秩序ある整備を図るための土地利用、都市施設の整備及び市街地開発事業に関する計画。

## ＜都市計画マスタープラン（都市マス）＞

市町村の都市計画に関する基本的な方針。市町村議会の議を経て定められた市町村の基本構想、および「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」に即して、市町村が定める。

## ＜トリップ＞

人がある目的をもって、ある地点からある地点へと移動する単位をトリップといい、1回の移動でいくつかの交通手段を乗り換えても1トリップと数える。

## 【な行】

## ＜二地域居住＞

団塊の世代のリタイアで、都市住民に広がることが予想されている生活様式。都会に暮らす人が、週末や一年のうちの一定期間を農山漁村で暮らすもの。田舎で暮らす期間としては、年間「1～3か月連続」又は「毎月3日以上で通算一ヶ月以上」などがある。2005年に国土交通省の研究会が提唱し、同省では国土計画の中に取り上げていきたい考え。観光客などが一時的に滞在する観光等の「交流人口」と「定住人口」の中間的な考え方と位置づけられる。

## ＜NOx＞

窒素酸化物のことで、人為的発生源は自動車を主発生源とする移動発生源と、発電所・工場・住宅を主発生源とする固定発生源に大別できる。

## ＜ノンステップバス＞

利用者の乗降をより容易にするため、床面地上高を35cm程度（通常は90cm程度）まで引き下げることにより、ステップ（階段）を解消したバス。

## 【は行】

## ＜発生集中交通量＞

発生量（あるゾーンを起点とするトリップの合計量）と集中量（あるゾーンへ終点するトリップの合計量）の総和である。交通量予測手法においては、ゾーン固有の特性（人口、土地利用等）を用いて、発生量と集中量が推計される。

## ＜バスロケーションシステム＞

無線通信やGPS（全地球測位システム）などを利用してバスの位置情報を収集することにより、バス停留所や携帯電話、インターネットでバスがどこにいるかなどの情報を提供するシステムのこと。

## ＜バリアフリー化＞

高齢者、障がい者、妊産婦などが、社会生活をしていく上で障壁（バリア）となるものを除去（フリー）すること。物理的、社会的、制度的、心理的な障壁、情報面での障壁などすべての障壁を除去するという考え方である。たとえば、バスや鉄道の車両、歩道等において、段差、階段、出入口、通路などが配慮の対象となる。

## ＜バリアフリー重点整備地区＞

高齢者や障がい者等が利用する生活関連施設が存在し、移動の円滑化を図る必要性の高い地域で、関係市町村が指定するエリア。

## ＜バリアフリー新法＞

高齢者、障がい者等の移動等の円滑化の促進に関する法律。移動における連続的なバリアフリー化を促進するとともに、高齢者、障がい者（身体障がい者・知的障がい者・精神障がい者・発達障がい者を含む全ての障がい者）、妊産婦、けが人などの移動や施設利用の利便性や安全性の向上を促進し、バリアフリー施策を総合的に展開することを目的とした法律。

## ＜P&amp;R（パークアンドライド）＞

札幌都心等の道路混雑を緩和するため、自動車を都市郊外の駐車場に止めて鉄道等の公共交通機関に乗り換え、札幌都心あるいは特定地域に入る形態のこと。

## ＜プローブデータ＞

自動車等にセンサーを搭載し、走行速度情報、位置情報等を収集したデータ。

## ＜分担率曲線＞

交通手段（機関）分担率と要因値との関係を表す曲線。選択率曲線ともいう。分担率が所要時間や所要費用等の一つの要因に従って変化するとき実績値から作成される簡便なモデル。

## ＜ボトルネック＞

交通路において他よりも極端に容量が小さい区間。交通路全体の容量は、もっとも容量の小さい部分のそれによって決定されるため、また交通渋滞を生じさせる原因ともなるので、交通計画上でボトルネックの解消が重視される。

## 【ま行】

## ＜マリントーリズム＞

漁村に滞在して、漁業体験やその地域の自然・文化に触れ、人々との交流を楽しむこと。

## ＜マルチモーダル＞

車、バス、JR、路面電車、新交通、自転車など複数（マルチ）の交通手段（モーダル）を連携すること。人流では、乗り換えをスムーズにしたり、利用者の選択肢を増やすことで、都市全体の交通をスムーズにすることなどを指し、物流ではトラック輸送に偏りがちな状態から鉄道・海運・水運・航空への分散を図ることなどを指す。

## ＜モビリティ＞

個人の空間的移動の自由度を表し、交通計画・政策の指標となる。モビリティ指標の例としては、交通手段選択の制約や移動における速達性や快適性や安全性、所要時間の信頼性等がある。

## ＜モビリティ・マネジメント（MM）＞

渋滞や環境、あるいは個人の健康等の問題に配慮して、過度に自動車に頼る状態から公共交通や自転車などを『かしくく』使う方向へと自発的に転換することを促す、一般の人々や様々な組織・地域を対象としたコミュニケーションを中心とした持続的な一連の取り組み。

## 【や行】

## ＜夜間人口＞

一定の住居に3ヶ月以上にわたって住んでいる者の数を常住人口といい、夜間人口はその通称。国勢調査では、住民登録をしていない者も調査時点に実際に居住している場所の人口の中に含まれている。

## ＜有効幅員＞

車両や歩行者等が障害なく通れるように確保された部分の幅。

## 【ら行】

## ＜ライフサイクルコスト＞

施設が建設され、それが廃棄されるまでに必要となるすべての費用のこと。直接的な事業費用だけでなく、事業が終了したのちに必要となる維持・補修費用や、施設の更新や破棄に必要な費用も含まれる。

## ＜レンタサイクルシステム＞

市街地内の短距離移動を補完するための交通手段として、自転車を有料あるいは無料でレンタルするもの。

## ＜ロジットモデル＞

効用（確率項+確定項）最大化理論（効用が最大になるように選択する）に基づいて設定するモデルであり、そのうち、確率項が正規分布と類似したガンベル分布に基づくと仮定して選択確率を算出するもの。

## 【出典】

- 1.（社）土木学会編；"土木用語大辞典"，技報堂出版，1999
- 2.（社）交通工学研究会・TDM研究会編著；"TDMモデル都市・ベストプラクティス集"，丸善，1999
- 3.建設省都市交通調査室監修/都市交通適正化研究会編著；"都市交通問題の処方箋—都市交通適正化マニュアル—"，大成出版社，1995
- 4.今野博編；"新編都市計画"，森北出版，1989
- 5.樽木武・井上昭編；"交通計画学"，共立出版，1993
- 6.河上省吾編著；"土木計画学"，鹿島出版会，1991
- 7.朝日新聞社；"知恵蔵2001"，朝日新聞社，2001
- 8.行政機関（国土交通省、北海道、札幌市など）のホームページ内、用語集 など